

14日 水曜

伝道者の書



3:16 私はさらに日の下で、さばきの場に不正があり、正義の場に不正があるのを見た。
3:17 私は心の中で言った。「神は正しい人も悪しき人もさばく。そこでは、すべての営みとすべてのわざに、時があるからだ。」
3:18 私は心の中で人の子らについて言った。「神は彼らを試みて、自分たちが獣にすぎないことを、彼らが気づくようにされたのだ。」
3:19 なぜなら、人の子の結末と獣の結末は同じ結末だからだ。これも死ねば、あれも死に、両方とも同じ息を持つ。それでは、人は獣にまざっているのか。まざってはいない。すべては空しいからだ。
3:20 すべては同じ所に行く。すべてのものは土のちりから出て、すべてのものは土のちりに帰る。
3:21 だれが知っているだろうか。人の子らの霊は上に昇り、獣の霊は地の下に降りて行くのを。
3:22 私は見た。人が自分のわざを楽しむことにまさる幸いはないことを。それが人の受ける分であるからだ。だれが、これから後に起こることを人に見せてくれるだろうか。

この世のさばきは不正もつきもので、正義と言われぬものでさえ、完全に信頼できるものではないのだと著者は言います。スポーツなどでも、不正なジャッジで努力がだいなしになるという悲劇が生まれることがあります。それが人生であるなら、なんとむなしいことかというのです。

その究極が死です。どんなに良いことをしても、人の役に立っても、忍耐の限りを尽くしても、結局獣のような悪者と同じく死という結末であるなら、それは全く不正なことであり、むなしいことである

と著者は言うのです。

もちろん以上のことは、もしも神が存在していなかったなら…という前提の話です。実際には神様は存在し、その人の人生に報いてくださいます。また不正なさばきに苦しむ人には、助けを与えてくだり回復を与えてくださいます。何よりも不正にでさえ神の遠大なご計画があり、すべてを益に変えてくださるのです。

そのような主のおられることに感謝しましょう。不正や不公平の中に悩んでいるなら、その中にも遠大なご計画で導かれる主を信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

